

# 最適なコラボレーションソリューションとは？

建築設計・エンジニアリング・建設業の企業に必要なのは、プロジェクト全体で効率的にデータ管理やコラボレーションができる、スマートなソリューションです。

この業界で、質の高いプロジェクトを効率的に遂行し、収益増加を実現するために必要なのは、チーム、データ、ワークフローをひとつにつなげ、パワフルなインサイトを提供するソリューションです。今、プロジェクトの複雑化と市場競争の激化に伴い、そうした柔軟性の高いソリューションへの需要が高まっています。

さらに、建築設計・エンジニアリング・建設業分野に特化したソリューションであることも重要です。一般的なオフィス向けクラウドアプリや、VPNが必要なサーバーソリューションでは、複雑な3Dファイル进行处理できないなどの問題が生じ、業務のスピードが落ちてしまいます。



BIM Collaborate Pro には、次のメリットがあります。



**代表的な設計ツールである** Revit, Civil 3D, AutoCAD Plant 3D で、いつでもどこでもコラボレーションできます。BIM Collaborate Pro なら、Web ブラウザーでどこからでも簡単にプロジェクトを表示し、タイムラインで進行状況を追跡し、問題を特定して変更要求を共有するなど、さまざまな機能を活用しながら、社内外のチームと効率的にコラボレーションできます。



MS Office 365, RVT, C3D, DWG, IFC, その他のオートデスク ファイルなど、50 種類以上の広範なファイルタイプに対応します。



クラウド環境で効率的なワークフローが実現します。データが高速に同期され、リモートで簡単にコラボレーションでき、定期的に機能強化やアップグレードが行われます。そしてこのすべてが、ビジネスコストの削減に直結します。



**堅牢なセキュリティ。**18 段階のアクセス権限が用意されています。適切な人が、適切なタイミングで、適切なドキュメントを利用でき、バージョンの競合を回避できます。また、クラウドはデータを安全に保管してアクセスできる場所として実証されています。Autodesk Construction Cloud プラットフォームは、業界トップクラスのテクノロジーで設計されています。オートデスクが責任を持ってお客様のデータを安全に保ちます。



**強化されたレジリエンス。**ビジネスにとって、データの整合性と可用性は重要です。オートデスクは、安定したネットワークの提供に全力で取り組んでいます。予定されているメンテナンス スケジュールを共有しながら、必要なときにいつでもデータにアクセスいただける環境を確保しています。

# 機能比較: BIM Collaborate Pro と、他のワークシェアリング ソリューションを比較してみましょう

	BIM COLLABORATE PRO	一般的なオフィスアプリ
<b>いつでもどこでもコラボレーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Revit クラウド ワークシェアリング] いつでもどこでも誰とでも、会社のファイアウォール外部の関係者とも、クラウド環境で Revit モデルを共有しながら同時に共同作成できます。</li> <li>• [Collaboration for Civil 3D] いつでもどこでも誰とでも、会社のファイアウォール外部の関係者とも、自動ファイル ロック機能を使用しながら、Civil 3D 設計ファイル、データ ショートカット、外部参照でコラボレーションできます。</li> <li>• [Collaboration for Plant 3D] チーム間や、会社のファイアウォール外部の関係者との間で、Plant 3D ファイルや参照ファイルを安全に共有できます。権限を管理し、コンプライアンス要件を遵守しながら、共通データ環境でチームの連携を維持できます。</li> </ul>	●	○
<b>基本的なファイルの保管と共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクティブな設計図書を読み取り/書き込み可能な形で共有したり、フォルダー/プロジェクトレベルでユーザー権限を設定したりできます。</li> </ul>	●	●
<b>バージョン管理</b> 設計ファイルの前バージョンにいつでもアクセスできます。	●	●
<b>共通データ環境</b> Revit、Civil 3D、AutoCAD Plant 3D で生成されたかどうかにかかわらず、すべてのプロジェクト データを 1つの場所で保管、管理することで、データ受け渡しの効率が増します。	●	○
<b>どこからでも設計レビュー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シートレイアウトの反復を並べて表示、比較したり、3D ビューでプロジェクト モデルを統合して表示したりできます。いちいち書き出しや変換、アップロードを行う必要はありません。</li> <li>• Revit (RVT)、Navisworks (NWD、NWF)、AutoCAD (DWG、XREF、DREF) はもちろん、IFC などの業界標準フォーマット、さまざまなオフィス ファイルまで、50 種類を超える 2D、3D 設計ファイル形式を共有、マークアップできます。</li> </ul>	●	○
<b>設計データのやり取りや提出物を管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロジェクト タイムラインで、期日に沿って設計パッケージを追跡、共有できます。</li> <li>• 詳細なフォルダー権限設定機能で、作業中のファイルに他のチームがアクセスできないように設定し、さまざまな分野のチーム間で同時に設計作業を進めやすくします。</li> </ul>	●	○
<b>自動干渉チェック</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• モデルをアップロードすると、自動的に干渉チェックが実行されます。干渉箇所を特定して直観的なマトリックス形式で結果を表示し、グループ化して作業の優先順位を決めることができます。</li> <li>• 「統合モデル空間」と呼ばれるサンドボックス化されたフォルダー内で共有モデルに対して干渉分析を実行し、設計オプションを検討し、進行中の実際の作業から切り離して設計を試行できます。</li> </ul>	●	○
<b>指摘事項の一元管理</b> 設計データの指摘事項を作成および追跡し、期限、担当者、根本原因を割り当てて、確実な解決へと導きます。Revit または Navisworks で直接クラウドから自分に割り当てられた指摘事項を表示し、一連の指摘事項ワークフローに従って解決までのステップを進めます (現在は BIM 360 でのみご利用可能です)。	●	○

● 全機能に対応

● 一部の機能に対応

○ 非対応

## BIM Collaborate Pro と他のソリューションのコストを比較してみましょう

FTP サイトは、短期的には便利に思われるかもしれませんが、既存のローカル サーバーにプロジェクトの設計ファイルを保存するほうが安価と思われるかもしれません。あるいは、高価なサーバー アプリケーションに投資して、少しずつコストを回収できることを期待する場合もあるでしょう。

しかし、最新クラウドの柔軟かつパワフルな連携ワークフローを活用しないままでは、多大な機会の損失につながります。従来のサイロ化されたワークフローでは、データのやり取りでしばしば問題が生じ、対応に何時間も浪費することで生産性が低下してしまいます。

BIM Collaborate Pro は、Civil 3D、Revit、Plant 3D 向けに開発された唯一のクラウド コラボレーションソリューションです。複数企業間の多分野にまたがる設計コーディネーションをサポートします。BIM Collaborate Pro は、変更内容を可視化する機能や、指摘事項とコメントの管理機能、モバイル デバイスでのマークアップ機能など、チームの共同作業を効率化する包括的なソリューションを提供します。また、クライアントもプロジェクト ライフサイクル全体を通じて設計データを活用できるようになります。

	サーバーベース (例: VAULT)	プロジェクト用 サーバー アプリ	WAN アクセラレーター	BIM COLLABORATE PRO
ハードウェアの費用	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ	-
ハードウェアのセットアップ - 人件費	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ	-
毎週のメンテナンス - 人件費	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ	-
サーバー ソフトウェアのライセンス購入	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ	-
ソリューション ソフトウェアのライセンス購入	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ	Ⓢ

さまざまなソリューションを併用した場合に生じるデータの競合がなくなります。費用のかさむ遅延を防ぎ、人材を最大限に活用し、業務を拡大することが可能になります。

Autodesk BIM Collaborate Pro を導入すれば、Revit、Civil 3D、Plant 3D で、いつでもどこでもコラボレーションできます。

## Revit Server をお使いですか？

Cundall 社が BIM Collaborate Pro と Revit Server のコストを比較したところ、「BIM Collaborate Pro なら 6 ヶ月以内に投資コストを回収できる」という結果が明らかになりました。

[詳細はこちら >](#)

## VDI をお使いですか？

Corgan 社が BIM Collaborate Pro のコストと、仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI) のスピン ストレージおよびフラッシュ ストレージの両タイプのコストを比較したところ、BIM Collaborate Pro は VDI フラッシュの 1/5 のコストとなることが判明しました。

[詳細はこちら >](#)